vinetur

カタルーニャのワイン研究機関、ブドウ畑の生物多様性がワイン品質に及ぼす影響を調べる全国プロジェクトに参加

IncaviとVinyes Domènechがモンサンで草生栽培や芳香植物の試験を実施し、土壌、ブドウ樹、ワインの官能特性への影響を調べる

2026年11月15日（日）



スペイン北東部のカタルーニャ州にあるワイン研究機関とワイナリーが、ブドウ畑の生物多様性がワインの品質や香り、官能特性を左右するかどうかを調べる全国規模のプロジェクトに参加した。

カタルーニャ州政府農業局が11月14日土曜日に発表した声明によると、Institut Català de la Vinya i el Vi（Incavi）とワイナリーのVinyes Domènechは、広域運営グループVINEUROに参加している。同プロジェクトは、ワイン生産環境における生物多様性が、ワインの品質や官能特性にどのような影響を与えるかを調べることを目的としている。

この研究・イノベーション事業では、ブドウ栽培とワイン醸造の両面で、さまざまなブドウ畑管理の手法を検証する。試験対象には、芳香植物や薬用植物の導入、草生栽培などが含まれる。こうした手法がブドウ樹や土壌、そこから造られるワインに及ぼす影響について、科学的根拠を得ることを目指す。

圃場試験は、タラゴナ県カプサネスにあるモンサン原産地呼称地域のワイナリー、Vinyes Domènechで実施される。試験地はセラ・デ・リャベリア山地とモンタルト山地の間に位置する。研究者は、これらの手法がブドウ畑の生育状況や土壌の状態、最終的なワインに与える影響を測定する予定だ。

Incaviは、ブドウ栽培における生物多様性の活用に関する知見に加え、醸造分析や官能評価の経験を生かし、試験のモニタリング、ワインの特性評価、結果の分析を担う。カタルーニャ州政府農業局によると、この役割は、Life Biodivineや、ブドウ畑周辺の生物多様性とワイン品質に焦点を当てた運営グループなど、過去のプロジェクトで蓄積した知見を基盤とし、取り組みを全国規模に広げるものだ。

VINEUROにはこのほか、ITAGRA.CT、ルエダ原産地呼称地域のBodegas　Moha、バリャドリード大学、Sociograph　Neuromarketing、BIOVEGENが参加している。各パートナーは、より持続可能な生産モデルを支えるツールの開発に取り組んでいる。

このプロジェクトは、農業生産性・持続可能性に関する欧州イノベーション・パートナーシップ（EIP-Agri）の広域運営グループの枠組みで実施されている。スペインの2023～27年共通農業政策（CAP）戦略計画を通じて資金が提供され、農業・漁業・食料省と欧州農業農村振興基金が支援している。

ワイン業界にとって、この取り組みは、生物多様性、持続可能性、製品品質を結び付け、検証可能で各産地に応用できる実践的な基準を示すことにつながる可能性がある。農業による環境負荷の低減を求められながら、ブドウの品質とワインの官能的な個性を守らなければならない生産者にとって、これは重要な課題だ。試験で一貫した効果が確認されれば、草生栽培や芳香植物の植栽といった手法が、ブドウ畑の回復力だけでなく、販売するワインの商業的価値や官能的価値も高めるかどうかを、ワイナリーや栽培農家が判断する助けになる可能性がある。